

心つないで

No.40

発行

2012年8月28日

東日本大震災
ろっこう医療生協・対策本部〈本部長・金丸正樹〉
(ろっこう医療生協・本部内 Tel. 078-802-3424)

再び、行ってきました！ 職員4人、医学生7人

地域医療インターンシップ in 大船渡

◆ 8月23日から26日にかけて、「地域医療インターンシップin大船渡」として職員4人と神戸大学医学部生7人が大船渡市を訪れ、仮設住宅への訪問やボランティア活動に取り組みました。



・今回のメンバーは、森本常務・羽田野組合員活動支援部管理者・雲田事務職員・加藤事務職員(いずれも灘診)の職員4人と、神戸大学医学部の学生さん7人の計11人です。
・一行は23日早朝に新神戸駅を新幹線で出発、水沢江刺駅からレンタカーで大船渡入りし、3泊4日の活動をし、26日夕方に帰神という強行軍でしたが、若さにモノを言わせて元気に任務を果たしました。

【写真左・現地で受け入れていただいた、大船渡市介護福祉センター前で】



・一行は24日、大船渡市保健介護センターを表敬訪問、震災発生から現在までの取り組みや、街の状況について説明を受けました。また、昨年から集まった義捐金10万円を医学部生の三好さんから同センターの熊澤所長にお渡ししました。【写真・右】



◆ 現地は関西ほどではないにせよ、猛暑の日々で、それでも一行は仮設回りやボランティア活動に文字通り汗を流しました。

【詳細は、ウラ面に続く】

地蔵盆のお菓子を仮設住宅に 訪問してお配りしました

「お元気で
すか?」



◆24日は午後から、総合公園仮設と沢川仮設での訪問行動を行いました。

・ちょうど地蔵盆の時期ということで、神戸からお菓子を持って行き、それを一戸一戸回ってお手渡ししました。現地には、地蔵盆という風習はないそうで、説明しながらの訪問でしたが、お会い出来た方たちにはたいへん喜んでいただけました。

【写真・左・右】

・お会いできたのは、全体の約半数くらいの方たちでしたが、その大半は高齢の方で、神戸からの訪問を驚き、喜んでいただけました。



◆ 水彩画の鈴木ハルさんとも再会

・沢川仮設では、鈴木ハルさんとも再会できました。これまでも「心つないで」で報告してきたように、鈴木さんは、現在仮設住まいですが特技の水彩画を描き、ご高齢ですが元気にお暮らしています。できれば年度末に、鈴木さんの水彩画の個展を神戸で開きたいと考えています。【写真・右。後列左から3人目が鈴木さん】

◆ 「復興」は、まだまだこれから

・気仙沼のJR鹿折唐桑(しおりからくわ)駅付近。【写真・下】



・仮設住宅でのボランティア活動をする医学部生さん。住宅裏口の段差解消のための台づくり。【写真・左】